

～すべての子どもが生きる力をつける「立科教育」をめざして～

＜学校教育目標＞ 『よく考えてやりぬく』『励ましみがき合う』『心と体をきたえる』立科の子ども

めざす子どもの姿

【生きてはたらく知識・技能】

五感を働かせて理解し、生活と結びつけることができる子

【思考・判断・表現力等】

自分の考えをもとに意思決定し、交流しながら適切に表現できる子

【学びに向かう力・態度】

他と関わり合いながらよりよい自分を目指せる子

令和4年度の重点 「つながる」 ～自分で考え行動できる立科小学校の子ども～

人とつながるあいさつ

＜自分から先にあいさつ＞

- ・友達や先生、お客様に会ったら、先に「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」
- ・相手の気持ちを考え、先に「ありがとう」「ごめんね」

＜地域の方にあいさつ＞

- ・地域で見守ってくださる方に会ったら、大きな声で「おはようございます」
- ・横断する時、止まってくださった運転手さんへ「ありがとうございます」

＜児童会との連携＞

- ・児童会代表委員会のあいさつ運動と連携し、児童からの発信を大切にす。

＜地域との連携＞

- ・PTA生活部や見守り隊の方との評価の共有

＜教師の資質向上＞

- ・自らがモデルとなるあいさつや言葉づかい

思いや考えとつながる授業

＜友達と伝え合う＞

- ・自分の思いや考えを、書いて表してみる。
- ・思いや考えを伝え合って、一人では気づけなかったことを知る。

＜授業の最後に振り返り＞

- ・分かったことを友達に伝えたり、説明したりしてみる。
- ・学習したことを、学習した言葉を使いながら、書いてまとめてみる。

＜聴く姿勢の向上＞

- ・目を見て聴く ・最後まで聴く ・反応する

＜学習課題、授業展開の工夫＞

- ・児童が知りたい、やりたいと思う学習課題
- ・仕組みや理由の理解、実感や根拠を伴った理解につながる学習活動
- ・児童が伝えたい、聞きたいと思う課題設定や場面設定

＜振り返りの場面の工夫＞

- ・日常生活や新たな学習、自分の思考の跡や成長へ目を向けられる振り返りの視点の提示

ふるさと  
立科とつながる生活科・総合

＜立科に飛び出し、立科の方から学ぶ＞

- ・学校の周りがあるさまざまな「もの」や「人」に出あい、学校だけでは得られないことを体験し、学ぶ。
- ＜立科を知り自分のできることを考える＞
- ・地域の方々の思いに触れ、地域のよさや課題を知り、自分にできることは何か考える。

＜自力解決につながる活動の充実＞

- ・児童会活動、三校清掃、清掃や草取り等の校内整備
- ・マラソン、水泳、しんたい連携、体カテスト大縄など

＜夢の実現に向けた活動の充実＞

- ・やぎの飼育、栽培活動、米作り、ベンチづくり、ハンモックづくり、石の収集とケースづくり、地域の会社見学、パルピックを通しての交流活動、ダンス、姉妹都市ウガンダとの交流など



多様性を認め、尊重し合う個の育成と集団づくり

【興味関心を引き出す体験的な活動】

- ・子どもの「もっとやりたい!」「なぜ」を引き出す体験活動
- ・実感を伴った理解を図る授業

【子ども主体の学び】

- ・個の考えが尊重される授業
- ・多様な考えの中で意思決定し、教科の特性に応じた表現ができる授業

【連続した自律的な学び】

- ・粘り強く自力解決できる活動づくり
- ・働くことや体を動かすことに喜びを感じ、よりよい自分を目指す活動

【評価】

学校自己評価の【自分の考えや気持ちを言葉で伝える】【質問・相談をする】の+評価を80%以上にする。

「違い」を受けとめ、「同じ」に気づく学級・学年・学校

異年齢による交流活動の充実

たてわり班の活動、姉妹学級での活動、児童会活動、外部講師の招聘、福祉体験

子どもの学ぶ力を高める「教師の専門性」の向上  
～授業改善と職員研修の充実～

- 「子ども同士が関わり合う授業づくり」の授業研究
- 「児童理解」についての職員研修

地域・家庭・学校の三者によるネットワーク  
～情報発信と地域・家庭との連携～

- 学校からの情報発信（お便り、HP、学年・学級懇談会）
- 地域の方々から学ぶ（社会見学や体験・職員研修）